

**双葉町復興町民委員会 高齢者等福祉部会
ワークショップ 第5回 報告書**

- 日時 平成27年12月3日(木) 10:00~12:00
- 場所 双葉町役場いわき事務所 2階大会議室
- 参加者 別紙座席表のとおり
- テーマ 「部会最終報告書の取りまとめ」

■部会の流れ

- ・部会最終報告書(案)の説明
- ・意見交換
- ・決定
- ・取りまとめを終えて(感想)
- ・全体討議

■報告書に関する指摘事項等

1. 不自由な避難生活の改善

- 「支援を必要としている人の発見」(P4、10行目)の「発見」は別の単語がよい。
→「発見」を「見出す」へ修正する。
- 「訪問しつつ、家でできるリハビリ体操を案内する」(P4、33行目、部会員意見部分)の「案内」という単語は言い換えた方がよい。
→「案内」を「指導」へ修正する。
- 「引きこもってしまっている方に、ある程度強制的にでも」(P5、13行目、部会員意見部分)の「強制的」という単語は「制度的」に変更したほうがよい。
→修正する。

2. 町民の生活再建の実現(高齢者福祉等)

- 「課題となっているという意見があった」(P7、10行目)については、「という意見があった」は不要ではないか。
→「課題となっている」へ修正する。
- 「群れで取り組む」(P7、26行目、部会員意見部分)という「群れ」という単語は言い換えた方がよい。
→「群れ」を「集団」へ修正する。
- 「本事項については今回の部会では議論を行わなかった」(P7、33行目)については、そのとおりだが、「健康診断後のフォローも必要だ」といった内容を追記したほうがよい。
→文章は事務局と調整の上追記する。
- 「を実施していくことが期待される」(P8、10行目)の「期待される」については、「必要だ」へ修正したほうがよい。
→修正する。

4. その他(医療・介護が必要にならないようにするという観点)

- 「東北健康センター」(P11、32行目)という施設はあるのか。
→「東洋健康センター」の誤りと思われるので、確認の上修正する。
- 「地域貢献を進めていくことが重要である」(P12、8行目)の後に、P4・24行目の「避難先自治体と連携した見守り支援の体制づくり・・・」

のような支援体制に関する追記があったほうがよい。
→上記に加えて、支援体制について具体的な補足文章を追記する。
文章は事務局と調整する。

◇全体を通して

- 「仕掛け」(P4、9行目・P5、13行目)という単語は言い換えた方がよい。
→文脈を見ながら「工夫」「仕組み」などの文言に修正する。
- 最終報告書の修正や追記等は部会長預かりとし、部会長が事務局と調整して確認した上で本委員会へ報告するものとする。
→異議なし。

■部会員の感想

最後に5回の部会を振り返って感想を述べた。

(部会員 1)

今回、高齢者等福祉部会のワークショップに参加して、諸々の問題点や課題が数多く提示され、あらためて対応の難しさを感じました。これらの課題を解決するには、行政に頼るところが大きいですが、町民一人ひとりの意識の改革と自助努力が本当に必要であると思います。

(部会員 2)

町民が離れ離れの中、町に頼らないでどこを頼ればよいのか。町が町民の意見を聞いて少しでも元に近い状態に近づけることが、行政としての役割だと思っています。3か年計画（復興まちづくり計画）が実行されることを楽しみにしています。

(部会員 3)

町民は助けて欲しいと思っています。そのためにはフォローする人材が必要で、その人材を育成するには時間がかかります。町民の心に寄り沿いながら一緒にいてくれる方が必要ですが、これを実現するには時間がかかると思います。

(部会員 4)

ワークショップへ参加させていただいたことに感謝します。貴重なお話や意見が数多くありました。ワークショップで作成した最終報告書は、町民にとって明るく前向きに一步前に入るような内容でまとめることができました。

(部会員 5)

自分はあまり意見を出せませんでしたでしたが、全体としては素晴らしい最終報告書ができたと思います。ここで決めた報告内容が、計画のための計画ではなく、できるところから実行されることが重要であると思います。

(部会員 6)

計画を立てた以上は、一つでも多く実行してもらいたいと思います。町民が参加したいと思うような行事を増やしていただきたい。また、会場までの移動手段が課題です。そして、町民のやる気を起こさせる方法を考えていただきたいと思います。

(部会員 7)

自分たちは避難者だという引け目を感じずに、自立して生活していけるようになることが大切だと思います。そうなるためにも、双葉の人に会って、同じ悩みを持つ人と話し合う機会や場を作ることが大切なので、不足している地域に交流施設などを作っていただきたいと思います。

(部会員 8)

素晴らしい最終報告書ができました。これを実現するためには、行政だけではなく、引っ張る人（リーダー的な人）が必要だと思います。町民の中に人材を育成しその人材を活用することで、復興まちづくり計画が効果的に実現されていくことが重要だと思います。

(部会員 9)

訪問活動を通じて、町民の本当の声を聴けているか気になっています。特に若い人の影が見えてこないのが不安です。新聞を見ても、若い人が出ている記事を見ないと思っていました。以前の双葉町は、若い人がいろいろと取り組んでいたのも、もっと参加してほしいと思います。

(部会員 10)

戸建て住宅や復興公営住宅に移るなど移動が多く、孤立する町民が発生する恐れがあるので、町民が支援員になって見守っていく必要があると思います。復興まちづくり計画を具現化していくのは大変だと思いますが、できることから実施していくことが大切だと思います。

(部会員 11)

交流会などへの参加状況の二極化が進んでいると思います。交流会に参加される方は、自分で生活を再建することができますが、そうでない人には、手をさしのべて支援していくことが大切だと思います。一つでも多くの実現可能なことに取り組んでいきたいと思います。

◇全体を通して

- 部会員の感想は、匿名で報告書の最後へ記載する。
→異議なし。

◇田中部会長からの最後のあいさつ

5回、遠方から参加していただき感謝申し上げます。

今後、最終報告書の修正と調整を事務局と協議した最終報告書を本委員会の場で報告させていただく。復興まちづくり計画において、実際に具現化・実施可能なものをきちんと報告していきたい。

この最終報告書は文章が多いので、何を訴えたいのかがわかりにくい面もあるが、一つでも二つでも実現可能なものを強く報告していきたい。

あとは、事務局と相談し、しっかりしたものを作りあげたい。

◇福島県相双保健福祉事務所 高橋専門社会福祉主事からの講評

オブザーバーとして、3回参加させていただいた。

町民の皆さんが、それぞれの立場で、双葉町の復興・高齢者のこれからを真剣に考えていただけてくださったということを感じた。

帰還がいつになるか、それまでの生活がどうなるかなど、困難は多いと思うが、双葉町の高齢者に心を寄せて、共に頑張っていたらいいと思う。

◇金子先生からの最後のあいさつ

5回のワークショップに熱心に参加していただき感謝申し上げます。

今回は、5回とも試行錯誤の連続であった。始めに皆さんの課題を聞くという段階から、具体的に課題を整理し、どのように取り組んでいくかというところまで話せたのかなと思う。

皆さんのご発言の中には、キラリと光る新しい芽が数多く見られた。皆さんの力と行政との協力により、この困難な状況を打開することが大切だ。復興まちづくり計画を実現して、素晴らしい双葉町にしてほしい。

◇双葉町 半澤副町長からの最後のあいさつ

全5回の真摯なご議論について感謝申し上げます。

皆さんの議論を聞く中、行政が震災当初に感じていた課題から、長期化する避難生活の中で課題が複雑多岐にわたって変化していることを痛感した。

時間の経過とともに、行政としての感覚が麻痺していた部分もあったとあらためて気づかされた。

部会員の皆さんの発言にもあったように、一つでも多く実現していけるように行政として最善を尽くすが、その他の団体や町民の皆さんとの連携も図っていきたい。

他の2部会の議論も聞く中、特に高齢者等福祉部会と町民コミュニティ部会で非常に類似した論点があった。二つの検討結果をうまく組み合わせ、今後の施策に反映していきたい。

町民が主体となったワークショップを実施していただいたこと、最期の第5回目に全員ご出席いただいたことにあらためて感謝申し上げます。

第5回双葉町復興町民委員会 高齢者等福祉部会座席表

(敬 称 略)

資料2

1 日時 平成27年12月3日(木)10:00~12:00

2 場所 双葉町役場いわき事務所 2階大会議室

荷物置き場

オブザーバー
 福島県相双保健福祉事務所
 高齢者支援チーム
 専門社会福祉主事
 高橋 秀雄

オブザーバー
 副町長
 半澤 浩司
 総務課総括参事
 武内 裕美

健康福祉課
 主幹兼課長補佐兼福祉介護係長
 小野田 真澄

パネール

福岡 涉一
 田中 勝弘
 羽根 田信

羽山 君子
 田中 順子
 細澤 榮子
 岩元 善一
 (財)電源地域振興センター
 客員研究員
 楠谷 治寛

渡邊 ゆかり
 永井 實智子
 高野 陽子
 玉野 憲一
 (財)電源地域振興センター
 客員研究員
 中村 元則

飲み物コーナー

ファンリテーター

受付

事務局	事務局(復興推進課)			
七電(財)	鈴木 薫	松本 奈々	橋本 靖治	平岩 邦弘
ン源(地)	米山 治介	山本 治	細澤 界	網蔵 孝紀
タ地域振興				

報道関係者 傍聴席